

1989年から1998年  
平成元年～平成10年

鹿屋市の市制施行 50 周年記念事業の一つとして、国鉄鹿屋駅跡に建設を進めてきた市役所の新庁舎が1年5か月の工事の末、平成3年3月に完成しました。



「鹿屋市役所」が  
国鉄鹿屋駅跡に移転



昭和64年1月7日、昭和天皇が崩御され、翌1月8日から元号が「平成」と改元されました。市内各地で半旗が揚げられる中、厳かに「平成」が始まりました。

◀1989

国内外での主な出来事

- 平成元年**
- 1 昭和天皇が崩御、皇太子明仁親王殿下が第125代天皇に即位。元号「平成」始まる。
  - 2 旭相互銀行が普通銀行の「南日本銀行」としてスタート。
  - 3 鹿児島市制施行100周年記念博覧会「サザンピア21」が開催。
  - 3 フィギュアスケート世界選手権で伊藤みどり選手が日本人初優勝。
  - 4 消費税初導入（税率3%）。
  - 4 任天堂「ゲームボーイ」発売。
  - 6 中国北京・天安門広場、デモの群衆を武力制圧。
  - 6 美空ひばりさん死去。
  - 7 第11～13号の三つの台風が相次いで襲来し、死者29人、行方不明者2人。
  - 9 横綱千代の富士関が大相撲界で初めて国民栄誉賞を受賞。
  - 11 画家吉井淳二さんが文化勲章を受賞。県関係では4人目。
  - 11 ベルリンの壁崩壊。
  - 12 米ソ首脳、冷戦終結を宣言。
  - 12 九州自動車道（八代IC）入吉IC間が開通。



## 「第1回九州地区生涯学習フェスティバル」開催

「第1回九州地区生涯学習フェスティバル」が開催され、健康スポーツフェアや産業フェア、まちかどコンサートや映像コンテストなど多彩な催しが開かれました。

## 「鹿屋市清掃センター」稼働

高度な公害防止技術を取り入れ、焼却場で一日に80 tのごみを処理することができる「鹿屋市清掃センター」が稼働。埋め立て容積は150万 $\text{m}^3$ で30年の埋め立てが可能となりました。



## 「第45回県民体育大会」開催

「第45回県民体育大会」が鹿屋市を主会場に肝属郡の各地区で開催され、肝属地区チームは、柔道、バレーボール（男子）などの種目で優勝し、男女総合で2位と健闘しました。

### ◀1991

- 9 平成三年
- 9 全国高校サッカー選手権で鹿児島実業高校が県勢初の準優勝
- 9 米軍主導の多国籍軍がイラク空襲、湾岸戦争開戦
- 3 景気が下降局面入り。バブル景気が終了
- 3 長崎県雲仙・普賢岳で大規模火砕流。死者・行方不明者43人
- 3 九州新幹線鹿児島ルートが正式着工
- 9 ボクシングの辰吉丈一郎選手が日本最速8戦目で世界王者に
- 9 第17〜19号の三つの台風で死者84人、行方不明者2人。暴風に耐えた「落ちないリンゴ」が受験生用として話題に

### ◀1990

- 12 平成二年
- 10 西郷隆盛と大久保利通を主人公にしたNHK大河ドラマ「翔ぶが如く」放映開始
- 9 第1回大学入試センター試験
- 6 礼宮さま、紀子さま、結婚の儀
- 9 台風第19号や前線の影響で西日本では総雨量が1,000mmを超える。死者42人、行方不明者2人
- 10 統一ドイツ誕生
- 12 TBS記者の秋山豊寛さん、日本人初の宇宙飛行



平成4年  
1992年



## 「国道220号 鹿屋バイパス」全線開通

市街地の混雑を緩和するために工事が進められてきた、「国道220号鹿屋バイパス」が全線開通し、笠之原交差点から白水町一里山までの10.6kmが利用できるようになりました。



## 輝北町総合福祉センター 「やすらぎの里」オープン

地域福祉の拠点として入浴施設を完備した輝北町総合福祉センター「やすらぎの里」が輝北町上百引に完成しました。



## 吾平町で オフトーク通信 サービス開始

吾平町で、電話の空き時間を利用して情報を流す通信システム「オフトークあいら」が開局しました。



平成5年  
1993年

## 「鹿屋航空基地史料館」 オープン

旧海軍の興亡の軌跡や戦後の海上自衛隊航空部隊の歩みなどを伝えることを目的に、「鹿屋航空基地史料館」がオープンしました。

◀1993

- 7 平成五年
- 7 天皇、皇后両陛下、戦後初の沖縄訪問
- 7 サッカーJリーグ開幕
- 6 皇太子さま、雅子さま、結婚の儀記録的な冷夏で米不足。タイなどから緊急輸入へ
- 7 鹿児島市を中心に「8・6水害」などの豪雨や台風災害が相次ぎ、死者は120人を超えた
- 7 北海道南西沖地震。M7.8。死者、行方不明者230人。奥尻島は津波で甚大な被害

◀1992

- 12 平成四年
- 10 大相撲初場所で貴花田関(後の横綱貴乃花)が19歳5か月の史上最年少優勝
- 7 鹿児島市の今給黎教子さんがヨット単独無寄港世界一周を達成
- 7 プロ野球広島カープの北別府学投手(曾於市末吉町出身)が200勝達成
- 7 パルセロナ五輪の女子平泳ぎで14歳の岩崎恭子選手が金メダル
- 8 夏の甲子園大会で星稜高校の松井秀喜選手が明德義塾高校戦で5打席連続敬遠される
- 9 毛利衛さんが日本人で初めてスペースシャトルで宇宙へ
- 9 学校では第2土曜日が休業日となり週5日制がスタート
- 10 九州新幹線鹿児島ルート(西鹿児島駅(現鹿児島中央駅)の駅舎着工
- 12 ソニー「ミニディスク(MD)」発売



## 「鹿屋市観光物産総合センター」完成

観光と物産の拠点づくりを目的に、観光案内や宿泊に関する総合案内、特産品の展示販売などを行う「鹿屋市観光物産総合センター」が海上自衛隊鹿屋航空基地近くに完成しました。



## 「かのやばら園」開園

霧島ヶ丘公園ゴーカート場の東側にオープンした「かのやばら園」には、約1haの敷地に500種6,300株のバラが植栽され、新たな観光スポットが誕生しました。



## 戦後最大級の台風第13号が襲来

中型で非常に強い台風第13号は、薩摩半島から大隅半島を横断し、送電用の鉄塔が折れるなど各地に甚大な被害をもたらしました。



## 「鳴之尾牧場展望所」開設

鳴之尾牧場への道はくねくねと曲がった見通しの悪い一本道のため、車を止めてゆっくりと眺めを楽しむ場所もなかったことから、4か所の展望所が開設されました。

- |  |                                 |   |
|--|---------------------------------|---|
| <p>12 ソニー「プレイステーション」発売</p> <p>12 「価格破壊」就職氷河期が流行語に</p> <p>10 大江健三郎氏、ノーベル文学賞受賞</p> <p>10 史上初の200安打を突破したオリックスのイチロー選手が210安打まで伸ばす</p> <p>9 関西国際空港が開港</p> <p>8 第1回気象予報士試験の実施</p> <p>8 夏の甲子園で、樟南高校が準優勝</p> <p>7 牧園町に県内初となる音楽専用の「霧島国際音楽ホール(みやまコンセル)」開館</p> <p>7 日本人初の女性宇宙飛行士・向井千秋さん宇宙へ</p> <p>6 長野県松本市でサリンが散布され、7人死亡</p> <p>4 鹿児島読売テレビが開局。県内民放は4局に</p> <p>2 純国産大型ロケットH2の1号機を打ち上げ</p> | <p>◀1994</p> <p><b>平成六年</b></p> | <p>12 サッカーW杯アメリカ大会予選で日本が出場権を逃す「ドーハの悲劇」</p> <p>11 欧州連合(EU)発足</p> <p>11 日本初の商用インターネット接続サービス開始</p> <p>10 屋久島が国内初の世界自然遺産に登録</p> |
|--|---------------------------------|---|



## 清子内親王殿下 (紀宮さま) ご来市

清子内親王殿下(紀宮さま)が「国際青年の村'94」の開村式と交流会にご出席のためご来市されました。市内のホテルには紀宮さまをひと目見ようと多くの市民が詰めかけました。



## 「鹿屋市保健 相談センター」開設

市民の健康をサポートする「鹿屋市保健相談センター」が北田町に完成し、保健事業の拠点施設として保健と福祉のより密接な連携が図られるようになりました。



## 「エアーメモリアル 40インかのや」開催

海上自衛隊鹿屋航空基地開隊40周年を記念して開催された「エアーメモリアル40インかのや」では県内初の航空ショーなどが行われ、3日間で13万人の観客が訪れました。

### ◀1996

- 12 10 10 7 7 4 2 1
- 平成八年
- 1 高校サッカー選手権で鹿児島実業高校が全国制覇
- 2 羽生善治棋士、王将位を獲得。史上初の将棋七冠
- 4 鹿児島実業高校が春の甲子園で全国制覇
- 7 大阪府の小学校でO157集団食中毒
- 7 アトラクタ五輪のサッカー男子で日本がブラジルを撃破する「マイアミの奇跡」
- 10 長嶋監督の巨人が11・5ゲーム差をはね返す「メーグドラマ」でセリーグ優勝
- 10 新県庁舎が落成
- 12 原爆ドーム(広島県)が世界文化遺産に登録

### ◀1995

- 11 11 7 5 3 1
- 平成七年
- 1 阪神・淡路大震災。兵庫県の淡路島を震源にM7.3の地震。死者6,434人、行方不明者3人、負傷者約4万3,000人。家屋倒壊も相次いだ
- 3 東京の地下鉄に毒ガスのサリンがまかれ、13人死亡、約6,300人重軽傷
- 5 東京・有楽町に県のアンテナショップ「かごしま遊楽館」オープン
- 7 九州自動車道(人吉IC〜えびのIC間)が完成し全線開通
- 11 大リーグドジャース入りの野茂英雄投手がナ・リーグ新人王に
- 11 「ウィンドウズ95」の日本語版発売



## 「県立大隅広域公園」一部開園

吾平町上名に「県立大隅広域公園」の一部が開園しました。これは昭和63年から工事が進められてきたもので、約15haの敷地に花の広場や、木製遊具、体験施設など大人から子どもまで楽しむことができる公園が整備されました。



## 「あいら木市祭」初開催

吾平町商工会が初めて取り組んだ「あいら木市祭」が、吾平町振興会館前の通りを中心に開催されました。木市には、苗木や盆栽、庭木、陶器などが販売され多くの買い物客でにぎわいました。



## 「鹿屋串良水道企業団」業務開始

旧鹿屋市水道局と旧笠之原水道企業団が合併し、約33,000戸に給水を行う「鹿屋串良水道企業団」として新しく生まれ変わりました。



## 「輝北天球館」オープン

輝北うわば公園内に「輝北天球館」がオープンしました。館内には九州一を誇る口径65cmの反射望遠鏡が設置され、気軽に天体観測を楽しむことができるようになりました。

### ◀1998

- 平成十年**
- 11 陸上自衛隊の霧島演習場(えびの市、吉松町)などで初の日米共同訓練
  - 11 日米露や欧州などが参加して建設する国際宇宙ステーションの建設開始
  - 11 鹿児島市と東市来町で日韓閣僚懇談会
  - 8 北朝鮮がテポドン発射
  - 8 甲子園で横浜高校が春夏連覇。決勝で松坂大輔投手が無安打無得点試合を達成
  - 6 サッカーW杯フランス大会に日本男子初出場
  - 5 若乃花関の昇進で貴乃花関との史上初の兄弟横綱が誕生
  - 3 日韓交流イベント
  - 2 薩摩焼発祥400年。県内で
  - 2 長野五輪で日本は金5個を含む10個のメダル獲得

### ◀1997

- 平成九年**
- 12 トヨタ自動車「プリウス」発売
  - 11 地球温暖化防止の京都議定書採択
  - 11 宇宙飛行士の土井隆雄さんが日本人初の船外作業に成功
  - 11 山一證券が自主廃業決定
  - 8 ダイアナ元英皇太子妃がパリで交通事故死
  - 7 出水市針原地区で大規模土石流。死者21人
  - 5 上野原遺跡で国内最大規模、最古級の集落遺跡を発掘
  - 4 消費税が5%に引き上げ
  - 2 国産で世界最大の固体燃料ロケットM5の1号機を打ち上げ



## 中尾地下式横穴墓から 円頭太刀・鈴が出土

吾平町の中尾地下式横穴墓から長さ93cmの直刀が出土したほか、銅製の柄頭と鐙がついた長さ49cmの円頭太刀と銅製の鈴が県内で初めて発見されました。



## 輝北町でオフトーク通信サービス開始

輝北町で、電話回線の空き時間を利用してお知らせや緊急放送、地域内放送を行うオフトーク通信システム「ときめきチャンネル」が開局しました。



## 「湯遊ランドあいら」オープン

地域の交流拠点として、入浴施設や宿泊施設、トレーニングルーム、レストラン等が完備された「湯遊ランドあいら」が吾平町麓にオープンしました。



## 「アクアゾーンくしら」 オープン

外周204mの流水プールや大小2つのウォータースライダーなどが設置された「アクアゾーンくしら」が平和公園内にオープンしました。



## 「鹿屋分水路」に通水

市街地を流れる肝属川の洪水対策として建設が進められていた河川バイパス「鹿屋分水路」が12年の歳月を経て完成し、平成12年には周辺整備を含めた鹿屋分水路事業が完了しました。





## 地域住民主体の 「むら」おこしに取り組む

柳谷町内会長

とよ しげ てつ ろう  
豊重哲郎さん

地域づくりのきっかけは35歳の頃、当時地域をいかに盛り上げるかというテーマをもとに串良町の7地区で公民館の開設に携わったことでした。その際、公民館長をしてほしいという話を受け、会社経営をしながら地区の公民館長として企画運営に携わりました。

最大の転機は平成7年の町内会長の選出でした。上小原校区内での通達業務の多さや頻繁な有線放送の負担、仕事量のわりに少ない手当ではぼろランティアである状況など、引き受けるにはやや抵抗がありました。ですが、もともと上小原中学校バレー部の顧問をしていたこともあり支援者がいたのか、通常の町内会長の選出は推薦であるにも関わらず、なぜかこの時ばかりは役員改選投票で押されるような形で90%の得票率により選出。思わず口をついて「3年間任せてくれたら引き受けます」と言ってしまうました。

こうして「1人でするな、100人ですろ」をモットーに町内会の運営がスタートしました。しかし、最初から集落が固結していたわけではありません。自分が先頭に立って動き、知恵を絞って一緒に汗を流す方法を考えて実行していきました。まず、集落の人を組織運営に関わらせるため、作業部会を作り、集落

全員が運営主体となるようどこかの運営員になり、町内会全員で運営を行う仕組みを作りました。

人財の次は財務力。自主財源がないと行動ができません。1人の意見を大切にしながら議論を重ね、さつまいもの販売、焼酎の製作の事業を進め、自主財源の確保を行いました。地域づくりは最低10年、「感動の政策論と3331の方程式」だと思います。期待の3割、義理の3割、無関心の3割、反目者1割。中でも全体の4割を占める無関心・反目者の人たちが納得するように交流を重ねることに力を入れました。同時に、子どもにも役割を与え、家族単位で町内会活動に関わりが増えることで、徐々に交流人口が増え町内会がまとまってくるのを感じました。

長年の取り組みが功を奏し、地域の出身者が大人になってから子育てのためにUターンで帰ってくることもあり、現在では若い世代も増えてきています。帰ってきたかいたが思ったと思わせる地域にもつと発展させたいです。これからは「企画力、演出力、財務力」に優れた汗で語る政策が必要。地域先人の偉業を敬い、次世代の地域リーダー養成に力を注ぎながら持続できる地域づくりを目指したいと思えます。